

史跡 松前氏城跡

福 山 城 跡 VIII

—平成23年度 発掘調査報告書—

2012.3

北海道松前町教育委員会

例 言

1. 本書は平成23年度に松前町が実施した史跡松前氏城跡福山城跡（B-02-53）の遺構確認調査報告書である。
2. 本発掘調査は、平成23年6月1日から平成23年10月31日までの間、次の体制で実施した。

調査主体者：松前町教育委員会 教育長 森 定 勝 廣

調査担当者：文化社会教育課 主 幹 前 田 正 憲

調査員：文化社会教育課 学芸員 佐 藤 雄 生

作業員：皆月ニキ、竹内照了、岡田眞理了、高橋キヌ了、吉田多加了、渡邊眞理子、今本伸行、水牧 武、山田克夫

3. 本書の編集は、前田が行ない、執筆は前田・佐藤がそれぞれ分担し、末尾に執筆者名を記した。
4. 出土遺構の測量・実測・整理・トレースは佐藤・竹内が行なった。
5. 出土遺物の実測・トレースは竹内・皆月・今本が行なった。
6. 図版作成は佐藤・竹内が行ない、写真撮影は佐藤が行なった。
7. 調査期間中、次の諸機関からご指導ご協力をいただいた。
文化庁記念物課、北海道教育委員会、渡島教育局、財団法人 北海道埋蔵文化財センター、函館市教育委員会、七飯町教育委員会、知内町教育委員会、江差町教育委員会、上ノ国町教育委員会、厚沢部町教育委員会
8. 調査に関する諸記録・資料は松前町教育委員会が保存・管理する。

目 次

例言	i	4. まとめ	17
I はじめに		III 光善寺庭園の調査	
1. 調査の経緯	1	1. 調査の経過	19
2. 調査の目的と成果	3	2. 出土遺構	19
3. 調査の方法	5	3. 出土遺物	31
II 堀廻り地区の調査		4. まとめ	33
1. 調査の経過	7	参考文献	36
2. 出土遺構	7	報告書抄録	55
3. 出土遺物	11		

挿 図 目 次

第1図 遺跡位置図	iv	第13図 幕末期地形地割り復元図(光善寺周辺)	18
第2図 調査区位置図	2	第14図 光善寺庭園調査位置図	20
第3図 史跡【松前氏城跡福山城跡】周辺遺跡分布図	4	第15図 光善寺庭園TP-8・9平面図・セクション図	21
第4図 堀廻り地区調査位置図	6	第16図 光善寺庭園TP-10・11平面図・セクション図	22
第5図 堀廻り地区泥山付近遺構配置図	8	第17図 光善寺庭園TP-12平面図	24
第6図 堀廻り地区TP-1平面図・セクション図	9	第18図 光善寺庭園TP-12セクション図	25
第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図	10	第19図 光善寺庭園TP-13・14平面図・セクション図	26
第8図 堀廻り地区TP-4・5平面図・セクション図	12	第20図 光善寺庭園TP-15・16平面図・セクション図	28
第9図 堀廻り地区TP-6・7平面図・セクション図	13	第21図 光善寺庭園TP-17・18セクション図	29
第10図 堀廻り地区TP-8～10平面図	14	第22図 光善寺庭園出土遺物(1)	30
第11図 堀廻り地区TP-8～10セクション図	15	第23図 光善寺庭園出土遺物(2)	32
第12図 堀廻り地区出土遺物	16	第24図 光善寺庭園出土遺物(3)	34

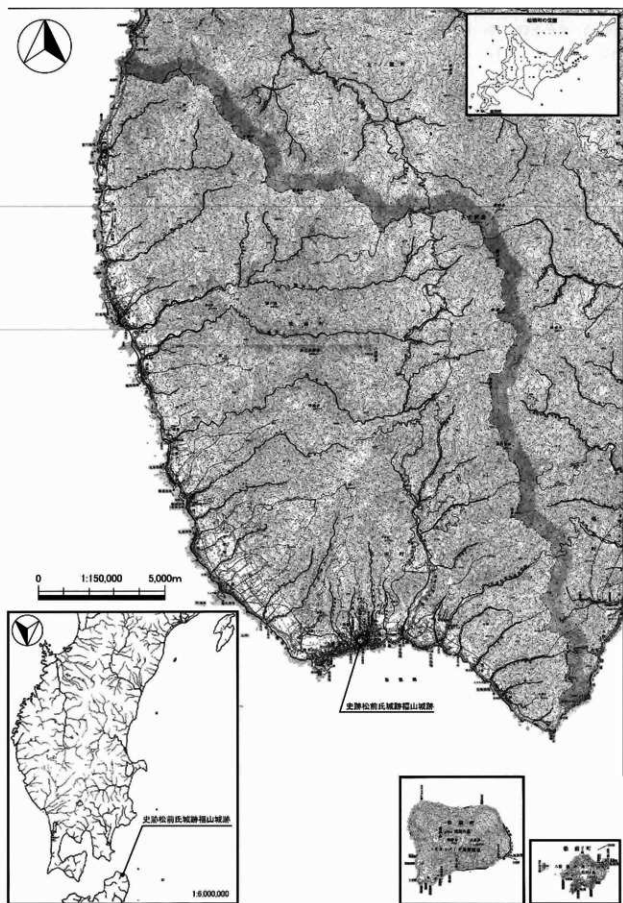
写 真 図 版

図版1 堀廻り地区TP-1・2	39	図版7 光善寺庭園全景	45
図版2 堀廻り地区TP-2～6	40	図版8 光善寺庭園TP-8・9	46
図版3 堀廻り地区TP-4～6	41	図版9 光善寺庭園TP-10・11	47
図版4 堀廻り地区TP-7～10	42	図版10 光善寺庭園TP-11	48
図版5 堀廻り地区TP-9・10	43	図版11 光善寺庭園TP-12	49
図版6 堀廻り地区TP-10・出土遺物	44	図版12 光善寺庭園TP-12	50

図版13 光善寺庭園TP-13・14	51	図版15 光善寺庭園TP-17・18	53
図版14 光善寺庭園TP-15・16	52	図版16 光善寺庭園出土遺物	54

図表目次

表1 年度別調査一覧表	1	表3 堀廻り地区出土遺物観察表	35
表2 出土遺物一覧表	5	表4 光善寺庭園出土遺物観察表	35



第1図 遺跡位置図

I はじめに

1. 調査の経緯

史跡松前氏城跡 福山城跡の遺構確認調査は、昭和55年度から開始し、今回で26回目を数える。これまでの発掘調査により、以下のように遺構の規模・構造が明らかになってきた。

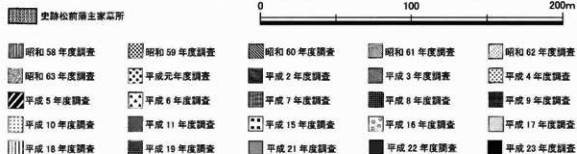
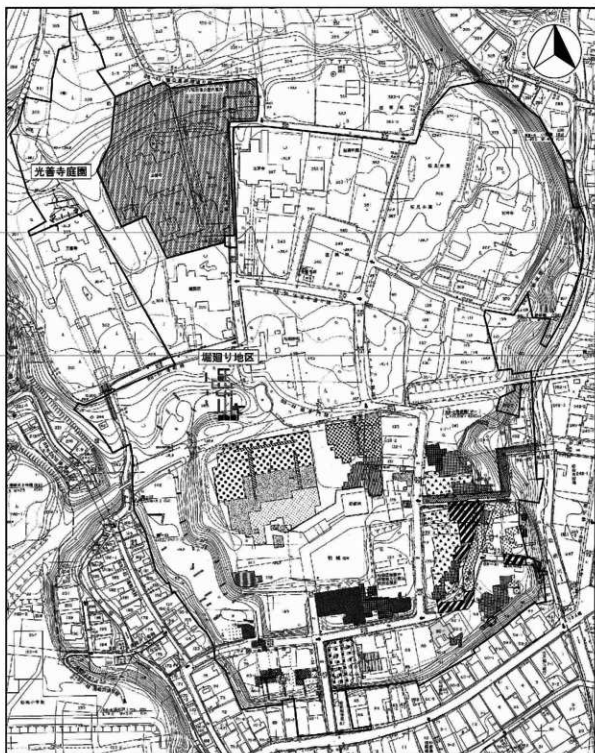
表1 年度別調査一覧表

年度	調査地点	確認遺構	調査面積
昭和55年度	探検1ヶ所	外堀・外堀	146㎡
昭和58年度	本丸	外堀・空堀	270㎡
昭和59年度	本丸	外堀・空堀	850㎡
昭和60年度	本丸	本丸西側堀	188㎡
昭和61年度	本丸	堀子口・西門	170㎡
昭和62年度	本丸	本丸西側堀・排水溝	880㎡
昭和63年度	本丸	本丸西側堀・西堀石垣・排水溝	1,500㎡
平成 元年	本丸	本丸西側堀、西堀石垣・西土手・西門跡 御海通溝・地下蔵様遺構・空堀溝・外堀	1,800㎡
平成 2年度	本丸	石道・外堀・堀	300㎡
平成 3年度	三ノ丸東部	石道・外堀・馬場堀切石垣	200㎡
平成 4年度	三ノ丸東部	外堀・馬場門・堀・御歌垣遺構・御番所・七番御台場・土居・東部石垣・堀切・御溝・外堀跡	1,980㎡
平成 5年度	三ノ丸東部	外堀・三本松土居・天守堀門	1,172㎡
平成 6年度	三ノ丸東部	一重土居堀・土居・土居・堀手門	1,800㎡
平成 7年度	東堀・二ノ丸・三ノ丸東部	一重土居堀・堀切・外堀・八重土居・東堀土居・三ノ丸土居	1,095㎡
平成 8年度	東堀・二ノ丸	堀跡・堀手門・遺存形石道	569㎡
平成 9年度	二ノ丸	二ノ丸堀跡・西土手跡・外堀	1,161㎡
平成10年度	三ノ丸西側	一重土居・二重土居	630㎡
平成11年度	三ノ丸東部	外堀・八重土居	100㎡
平成15年度	三ノ丸西側	堀切門・天守堀・三ノ丸石道	807㎡
平成16年度	三ノ丸西側	堀切門・堀切石垣・三ノ丸石道	900㎡
平成17年度	三ノ丸西側	三重土居・四重土居・堀切門・沖ノ口跡	650㎡
平成18年度	三ノ丸西側・西堀	一重土居・堀切石垣	1,128㎡
平成19年度	三ノ丸西側・堀切	一重土居・二重土居・本丸土居・水涵溝	600㎡
平成20年度	堀切の予定した中止		
平成21年度	堀切	堀口・本丸土居	105㎡
平成22年度	堀切・片敷寺跡	堀口・本丸土居石垣堀切・堀切の跡・農道	94㎡
平成23年度	堀切・片敷寺跡	本丸土居石垣堀切の跡・土居・農道・堀口石垣・堀山	126㎡

以上のように各年度の調査を終えた。史跡整備は、昭和50年度に策定した第1次保存管理計画に基づき、初期には本丸の御殿復元を目指し、本丸部を主体に調査行なってきた。しかし、発掘調査の結果、遺構の保存状態が余り良くなかったため、次第に保存状態の良い二ノ丸・三ノ丸南東部の調査に移行して行った。そして、この南東部地区について、集中的に調査・整備する方針が、平成5年度の松前町史跡福山城整備検討委員会にて承認され、文化庁・北海道教育委員会の指導の下に各種資料調査や条件整備を進めてゆき、平成8年度には、この整備をふまえた第2次保存管理計画が策定された。

平成11年度から「ふるさと歴史の広場」事業を開始し、平成14年度までの4年間で、城内二ノ丸・三ノ丸地区南東部を集中的に整備した。この地区の整備によって、堀手二ノ門・天神坂門（高麗門）・土居（115m）・高欄付木橋・土居石垣・外堀・七番台場などが復元され、城郭を実物大で体験出来るとともに、縮小模型も設置し城郭全体の構造や立地などを、より一層理解出来るようになった。

なお、この集中整備事業で、石垣石を多量に使用したことから、当時の石垣石の採掘場では、石材の枯渇が危惧された。そこで16年度以降の整備事業計画の基本方針として、「緊急的な課題は、石垣石の確保と整備計画書の策定である。中期的な課題として寺町庭園整備が挙げられる。そして、長期的な課題としては、史跡周



第2図 調査区位置図

辺地も含めた各ゾーンの調和のとれた整備となろう」とし、「石垣石の採掘が望めた場合は外堀を中心とした、二ノ丸、三ノ丸の復元的整備重点ゾーンの整備が見込める」また、石垣石の採掘が「望めない場合は石垣石を必要としない平場整備が中心となり、本丸、東郭、北郭、二ノ丸、三ノ丸の平面表示、土塁復元、堀廻りの修景などの広域的な、一般整備・多機能整備重点ゾーンの整備が見込める。当然、そのゾーンのみにとらわれることなく周辺地域の環境整備も必要に応じて実施する。その中で、寺町地区の整備については、新年度から検討を開始する」とした。

また、平成16年度に、従来石垣石の採掘場としていた更に西側の国有地を町が購入し、石垣石の新採掘場所として確保した。そして、平成17年度の史跡整備事業で、石垣修理のため石垣石の採掘を開始するための作業道を掘削したところ、幕末の石垣遺構が発見された。さらに、周囲を踏査したところ、石の切り出し遺構も発見されたので、遺構が発見されたこの一帯を、平成17年11月14日付で「神明石切り場跡」の名称で埋蔵文化財包蔵地として登録した。また、直ちに文化庁に報告し今後の指導を仰いだところ、「神明石切り場跡」の範囲確認調査を行うよう指示があり、平成18年度から国庫補助事業の町内遺跡で、この石切り場跡の「範囲内容確認調査」を開始した。これによって、当採掘地から、整備のための石垣石の切り出しは、「神明石切り場跡」の範囲内容確認調査が終了するまで全く見込めなくなった。

そこで、平成16年度に策定した整備の基本方針で述べている、石垣石が「望めない場合」の「土塁復元、堀廻りの修景などの広域的な、一般整備・多機能整備重点ゾーンの整備」を実施する方向で整備を進めることにし、平成18年度には「三ノ丸」にある、三番台場・馬出升形の遺構確認調査を行った。

そして、平成19年度からは、石垣石をほとんど必要としない、本丸西側に隣接した「堀廻り地区」を整備するためのトレンチによる遺構確認調査を開始したのである。また、平成20年度には調査担当者が体調を崩したため、史跡整備事業を中止した。さらに、平成21年度は、平成20年度に予定していた事業内容を実施したが、堀廻り（滝口地区）の調査が急傾斜のため予想以上に手間取ったため、三番台場の調査を中止した。そして22年度は、「堀廻り地区」と「本丸土居」及びその周辺で、滝口北側土塁の旧地形の確認と、さらに寺町地区にある「光善寺庭園」の名勝指定に向けた詳細内容調査を実施した。

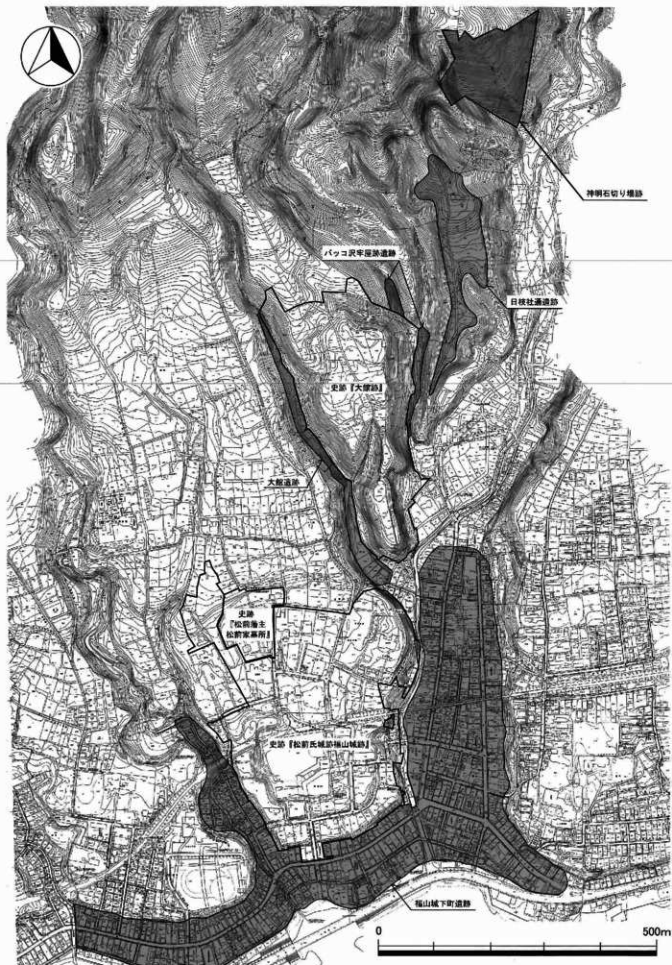
本年土居本丸土居の旧地形の確認のための試掘調査と、光善寺庭園の池畔確認のための試掘調査を実施した。

(前田)

2. 調査の目的と成果

今回の試掘調査によって発見した遺構は以下の通りである。また、出土物については表2に示す。

- | | |
|----------|---------------|
| 1) 堀廻り | 本丸土居石垣根掘り・土塁 |
| 2) 光善寺庭園 | 滝口石組・州浜・庭池・築山 |



第3図 史跡『松前氏城跡福山城跡』周辺遺跡分布図

今年度の調査により、本丸土居側旧地形が概ね判明した。また、滝口石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高い。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り土による整地がなされていたが、根掘りや旧地形を検出することができ、安政元年（1854）築城時に描かれた『福山城見分図』と位置関係が一致した。

光善寺庭園については、滝口石組・庭池・東西出島・築山のおおよその構築年代が判明したが、導水・排水遺構を検出するには至らなかった。

(前田)

3. 調査の方法

基準点から光波測距儀で、出土遺構についての輪郭線・端点の測量を直営で行った。調査区トレンチについても同様に位置を起こし、出土遺構については3次元測量を行なった。当然、手実測による図面も必要に応じ平面図・断面図・立面図を1/10、1/20で作成したので、座標上に詳細な実測図を正確に置くことが出来た。法面にある長い土層断面図については、分層の分岐点を測量し手実測との整合性を高めた。出土遺物については手実測とともに三次元測量をして取り上げた。記録写真についてはデジタルカメラを多用し、データ保存に努めた。

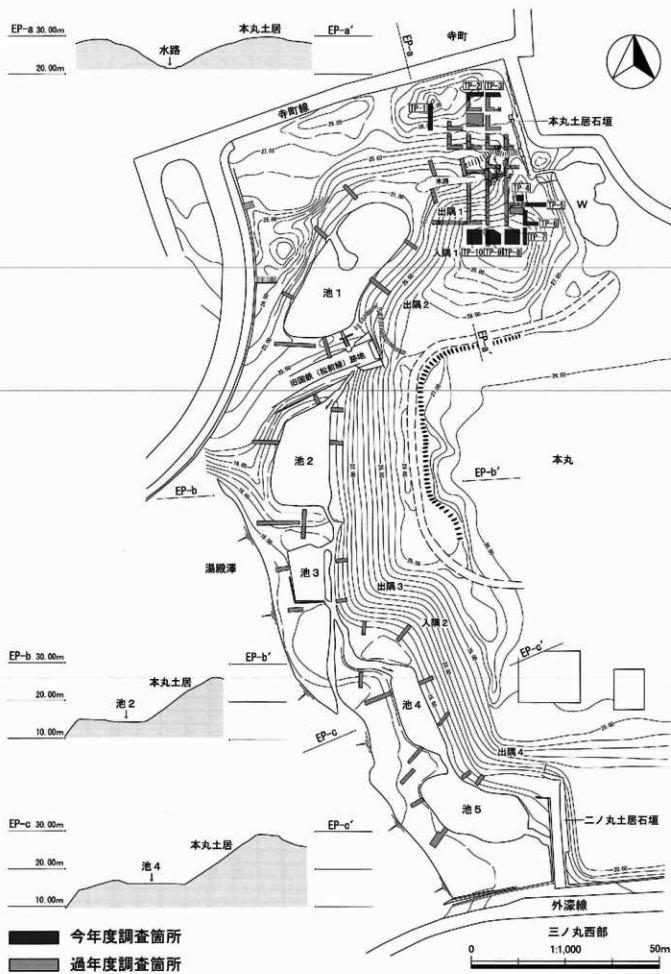
整理作業については測量データをもとに、実測図面の浄書（第二原因）を作成し、これをデジタルトレースした。遺物実測については、写真実測を多用し、デジタルトレースをした。

発掘調査は6月1日から開始し10月31日に終了した。整理作業は11月1日から開始し3月22日まで実施した。

(前田)

表2 出土遺物一覧表

遺構・地区	遺構					陶器							その他					
	竪穴	土坑	竪溝	堀	その他	磁器	土器	雑器	磁器類	土器類	その他	ガラス類	金属類	瓦	コンクリ	土器	その他	
『史跡 福山城』 庭園り地区																		
TP-1	25	15	1		18				3	11	18	15		1	24		24	153
TP-2-2	20	15		1	13			1	4	2	15	25		4	8		46	156
TP-4	3									2		5		1	2		36	51
TP-5	2	1									12	3	18	1	1		3	39
TP-6	15	7		1	2	1		10	1	2	4		3	1	17		12	75
TP-7	16	3		1	11		1	5	3	1	5	6	8	3	24	1	16	154
TP-8	4			1	2	3	1		1	5	1	30		4	124		17	193
TP-9	17	6		1	3	1		1	1	3	6	19		5	44		13	120
TP-10	17	7	1		7	2		1		6	11	27	14	3	117		9	224
緑土	2									3	17	5	1	1	8		9	47
『史跡 福山城』 光善寺庭園																		
TP-8	7	3	1		3			1		2		8	1	7	14		105	202
TP-9	8	2	2		2			1	1	1	2	5	2	1	1		211	239
TP-10	6				10					4	4			4	24		45	97
TP-11	9	3	1	1	13			3		2	11	6		4	214	1	34	303
TP-12	32	8			10	1		1	1	7	23	29	14	9	447		366	948
TP-13					1						2				110		26	139
TP-14	1														7		117	125
TP-15	6	1			1			1	1		2	5		1	69		67	154
TP-16	1										1	1	1	1	6		100	111
TP-17	3									2	7				13		279	306
TP-18	1																58	58
合計	193	71	6	5	95	7	4	25	15	31	117	167	135	51	1325	2	1644	3888



第4図 堀廻り地区調査位置図

II 堀廻り地区の調査

1. 調査の経過

第4図 堀廻り地区調査位置図、第5図 堀廻り地区滝口付近遺構配置図

平成19年度より調査が開始された「堀廻り地区」は、平成16年度策定の整備方針に沿って整備を行うものであり、今年度は本丸土居石垣及び堀廻り地区北側の土塁の調査を行った。

堀廻り地区北側の土塁では3ヶ所のトレンチ調査を、本丸土居石垣側では4ヶ所のトレンチ調査及び3ヶ所の平面発掘調査を行った。

なお、堀廻り地区北側の土塁上には多数のツツジが植わっていることから、トレンチにかかったものは根から掘り起こし、史跡外の公園に移植した。また、土塁上には幕末期に植えられたとみられる赤松もあることから、根を傷つけないよう注意を払って掘削を行った。

(佐藤)

2. 出土遺構

第6図 堀廻り地区TP-1平面図・セクション図

・TP-1

堀廻り地区と寺町地区の境界に、幅約25mの土塁がある。この土塁は瘤が二つ並んだ形状を呈しており、西側頂上が高さ約2.5m、東側頂上が高さ約1.5mとなっている。両側の土塁上に南北方向のTP-1を設定した。頂上に植わっている赤松の根を保護するため、土塁頂上まではトレンチを延長していない。

土層11)・13)・17)・18)の上面は非常に硬く締まっていることから、嘉永3年築城以前の田地表面とみられる。また、当該地点には福山館期に木塙があったことが『松前奉行所経営地割図』『松前自沖口至奉行所図』(いずれも国立公文書館内閣文庫所蔵)といった絵図から判明しており、土層14)がその遺構という可能性はあるものの、部分的なトレンチ調査であることから断定するには至らなかった。土層1)～10)は安政元年新城完成以降の堆積で、19世紀中葉の陶磁器やグリーンタフ片が含まれる。

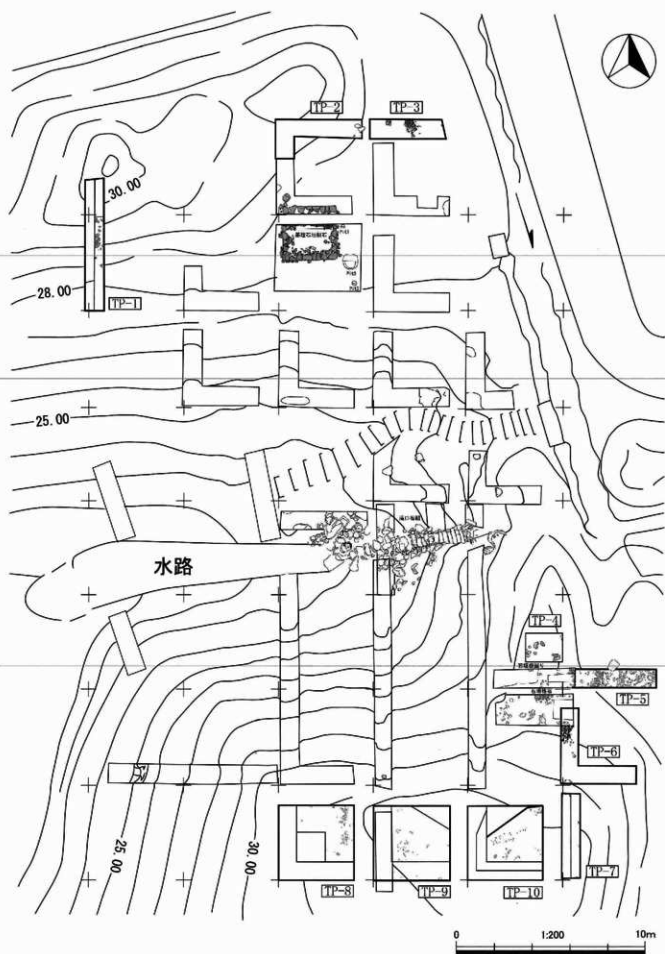
第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図

・TP-2、TP-3

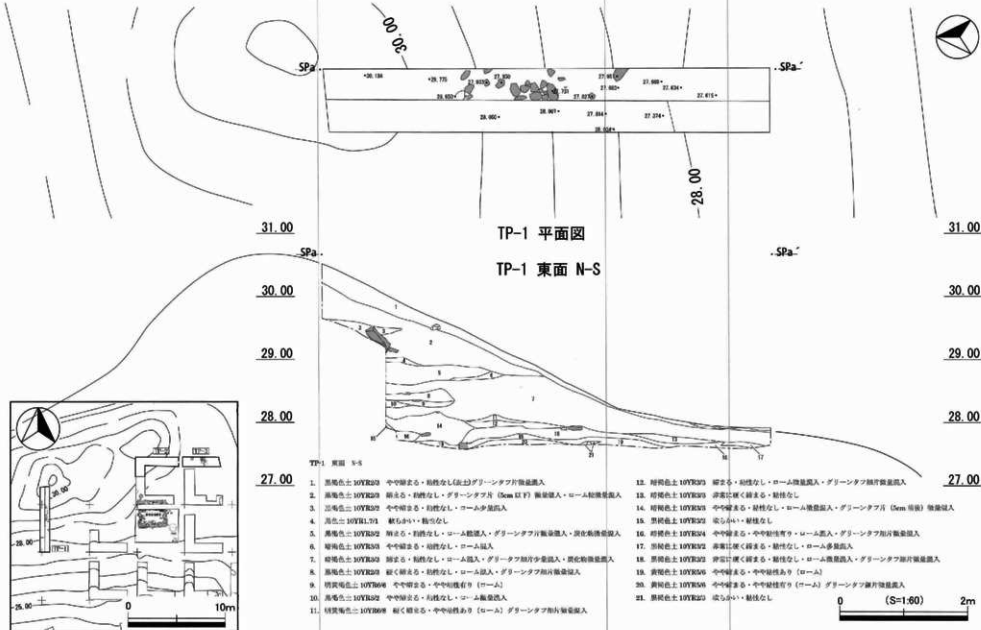
TP-2は東側の土塁上に、TP-3はそれを東に延長する形で設定した。土層2)には近・現代のガラス片や磁器、タイルなどが含まれていることから、TP-1の土層1)同様、明治8年以降に公園化された際の造成あるいは、ツツジを植えた際の盛り土とみられる。土層3)以下は近代の遺物を含まず、グリーンタフ片が混入することから、明治8年築城以前の堆積と考えられる。

第8図 堀廻り地区TP-4・5平面図・セクション図

・TP-4



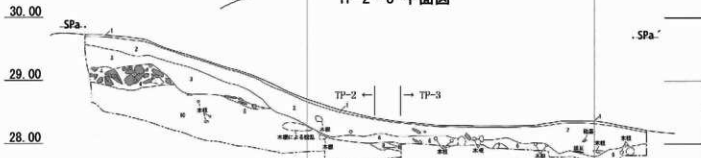
第5図 堀廻り地区滝口付近遺構配置図



第6図 堀廻り地区TP-1平面図・セクション図



TP-2・3 平面図

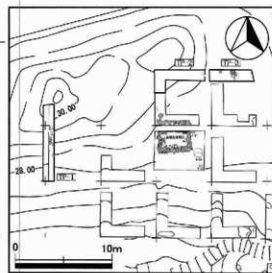


TP-2・3 北面 W-E

TP-2 北面 W-E

1. 高台土 10YR2/1 軟らかく・粘りなし・腐土状土
2. 砂質土 10YR3/0 軟らかく・粘りなし・腐土・グリーンタフ片散見
3. 高台土 10YR2/0 軟らかく・粘りなし・ローム状少量混入
4. 土壌土 10YR2/0 軟らかく・粘りなし・グリーンタフ片(5~8cm)及び 50cm前後の平石散見となる
5. 砂質土 10YR2/0 グリーンタフ片(10cm前後)より成る
6. 砂質土 10YR2/0 中々硬まる・粘りなし・ローム散見混入・グリーンタフ片散入
7. 高台土 10YR2/0 軟らかく・粘りなし・ローム散見混入
8. 土壌土 10YR2/0 硬く粘りなし・粘りなし・10YR2/0程度土混入
9. 砂質土 10YR2/0 中々硬まる・粘りなし・グリーンタフ片散見混入
10. 砂質土 10YR2/0 硬まる・粘りなし・腐化物散見混入・グリーンタフ片散見混入

0 (S=1:60) 2m



第7図 堀廻り地区TP-2・3平面図・セクション図

出土遺物から、土層 1)～4) は近・現代の盛り土とみられる。土層 5)～10) は近・現代の遺物を含まず、上面が硬く締まっていることから、幕末築城時～明治 8 年廃城の旧地表面と考えられる。トレンチ底面は嘉永 3 年築城以前の旧地表面とみられ、50 cm 前後のグリーンタフやハツリ屑を検出している。

・TP-5

土層 3)・4) 以下は嘉永 3 年築城時の堆積土とみられ、不定形の礫やグリーンタフのハツリ屑が多量に含まれる。土層 8) は本丸土居石垣の根廻り跡とみられる。

第 9 図 堀廻り地区 TP-6・7 平面図・セクション図

・TP-6、TP-7

TP-6・7 は本丸土居上に設定した。TP-6 トレンチ底面にはグリーンタフ破片の集積があることから、嘉永 3 年築城以前の旧地表面とみられる。TP-6 土層 2) は現代のガラス片が含まれることから最近時の堆積と考えられる。土層 4) は TP-7 土層 1) に相当し、TP-6 土層 8) は TP-7 土層 4) に相当する。TP-7 土層 1) には、近代の陶磁器やガラス片が含まれており、TP-6 土層 7) にもガラス片が含まれていることから、少なくとも TP-6 土層 1)～7)・TP-7 土層 1) は近代の公園化に伴う造成か、戦時下に本丸土居を掘削して行われた鉄道トンネル工事による掘り上げ土と考えられる。TP-7 土層 2)～6) は明治 8 年廃城以前の堆積土、土層 7)・8) にはグリーンタフ破片が含まれないことから、この上面が嘉永 3 年築城以前の旧表土と考えられる。

第 10 図 堀廻り地区 TP-8～10 平面図、第 11 図 堀廻り地区 TP-8～10 セクション図

・TP-8、TP-9、TP-10

本丸土居上において 4 m 四方の平面発掘に加え、西面・南面の L 字トレンチ調査を行った。

TP-8 土層 3) にはアルミ山のブルタフが含まれていたことから、土層 1)～3) は近・現代の堆積土、トレンチ底面は明治 8 年廃城後の旧地表面と考えられる。

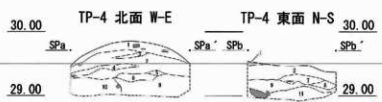
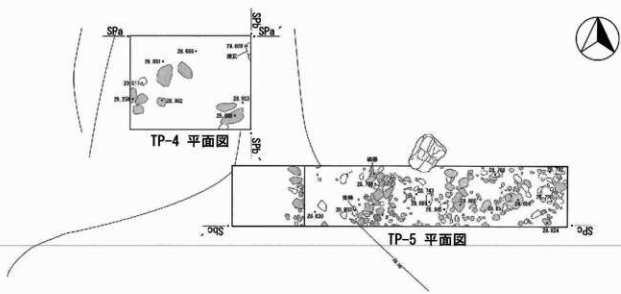
TP-9 西面 SP1-SP1' の観察から、土層 2)・4) 上面が非常に硬く締まっており、明治 8 年廃城までの堆積土と考えられる。それより下層が嘉永 3 年築城以前の堆積土とみられる。

TP-10 南面 SP1-SP1' の観察から、土層 1) は明治 8 年廃城以後の堆積土、土層 2)・4) はグリーンタフ片を含むことから廃城以前の堆積土とみられる。西面 SPJ-SPJ' においては、土層 8) が廃城以前の堆積土である。土層 5) は土層 8) 上面から掘り込まれているが、遺物が出土していないため詳細な時期は不明である。

(佐藤)

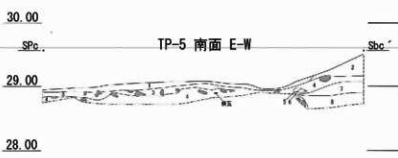
3. 出土遺物

表 2 出土遺物一覧表、表 3 堀廻り地区出土遺物観察表、第 12 図 堀廻り地区出土遺物
堀廻り地区の出土遺物は総計 1,212 点で、縄文土器・石器・陶磁器・瓦・金属製



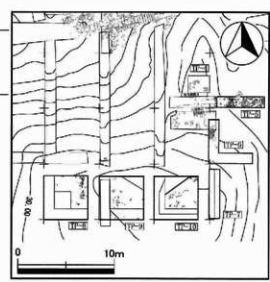
TP-4 北面 W-E 西面 S-E

1. 黒褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土（表土）
2. 暗褐色土 10YR2/4 中骨碎る・植物遺し・腐植土 10YR2/8 ローム少量混入
3. 褐色土 10YR2/4 炭化小骨・植物遺し・腐植土 10YR2/8 ローム少量混入
4. 暗褐色土 10YR2/2 中骨碎る・植物遺し・腐植土 10YR2/8 ローム少量混入
5. 暗褐色土 10YR2/2 中骨に碎る・植物遺し・腐植土 10YR2/8 ローム少量混入
6. 暗褐色土 10YR2/2 炭化小骨・植物遺し・腐植土 10YR2/8 ローム少量混入、ガラス片・陶片混入
7. 黄褐色土 10YR2/8 炭化小骨・植物遺し・腐植土、ローム・ガラス片少量混入
8. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土、黄褐色土 10YR2/8 ローム少量混入
9. 灰褐色土 10YR2/6 炭化小骨・植物遺し・腐植土、黄褐色土 10YR2/8 ローム少量混入
10. 暗褐色土 10YR2/4 炭化小骨・植物遺し・腐植土
11. 黄褐色土 10YR2/8 炭化小骨・植物遺し・腐植土、暗褐色土 10YR2/3 少量混入

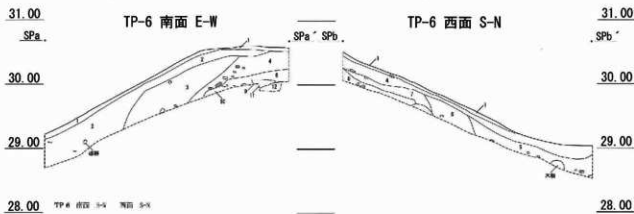
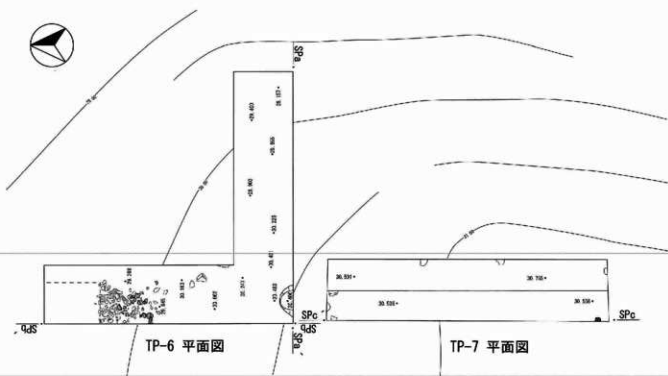


TP-5 南面 E-W

1. 黄褐色土 10YR2/8 炭化小骨・植物遺し・腐植土（表土）・ローム少量混入
2. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土（表土）・ローム少量混入
3. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土、ローム少量混入
4. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土、ガラス片少量混入
5. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土
6. 黄褐色土 10YR2/8 炭化小骨・植物遺し・腐植土、暗褐色土 10YR2/3 少量混入
7. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土、ローム少量混入
8. 暗褐色土 10YR2/3 炭化小骨・植物遺し・腐植土、ローム少量混入



第8図 堀廻り地区 TP-4・5平面図・セクション図



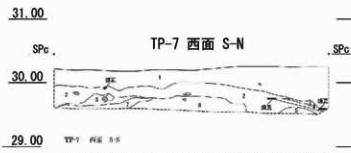
TP-6 南面 E-W

TP-6 西面 S-N

1. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし
2. 赤褐色土 10YR3/3 やや硬まる・粘性なし・ローム多量混入・グリーンタフ状腐植層混入
3. 黒褐色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし・ローム少量混入・グリーンタフ状腐植層混入
4. 黒褐色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし・ローム少量混入・グリーンタフ状腐植層混入
5. 黒褐色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし
6. 赤褐色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし・ローム少量混入

7. 黒褐色土 10YR3/2 硬く硬まる・粘性なし
8. 赤褐色土 10YR3/3 やや軟らかい・粘性なし
9. 赤褐色土 10YR3/3 軟らかい・粘性なし
10. 赤褐色土 10YR3/3 やや硬まる・やや粘り強い・ローム
11. 黄褐色土 10YR6/8 硬く硬まる・ローム
12. 赤褐色土 10YR3/2 やや軟らかい・粘性なし

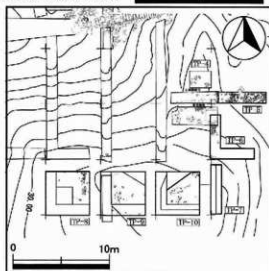
0 (S=1:60) 2m



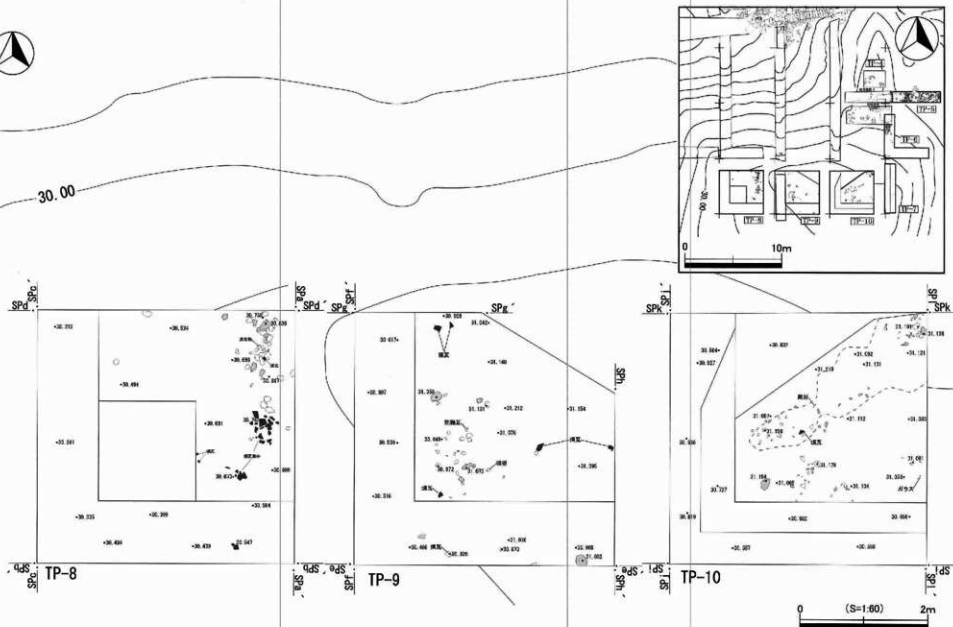
TP-7 西面 S-N

TP-7 西面 S-N

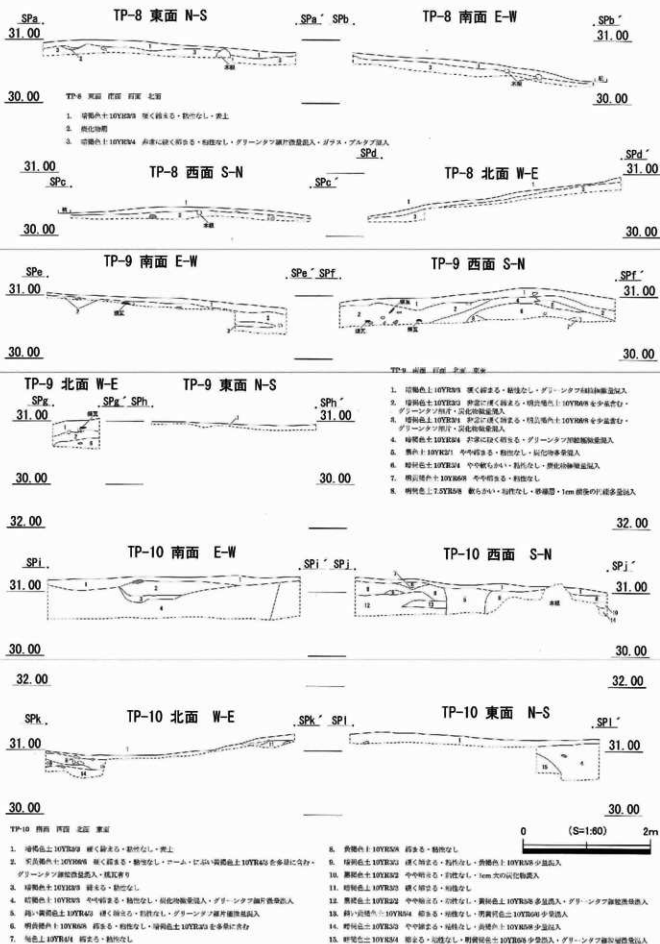
1. 黒褐色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし・切通褐色土 10YR6/8 ローム少量混入・グリーンタフ状腐植層混入
2. 赤褐色土 10YR3/3 硬まる・粘性なし・ローム少量混入
3. 赤褐色土 10YR3/3 硬く硬まる・粘性なし・ローム少量混入
4. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし・ローム少量混入
5. 黒褐色土 10YR3/2 軟らかい・粘性なし・ローム少量混入
6. 黒褐色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし・ローム少量混入・グリーンタフ状腐植層混入
7. 赤褐色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし・ローム少量混入
8. 赤褐色土 10YR3/2 やや軟らかい・粘性なし・ローム少量混入



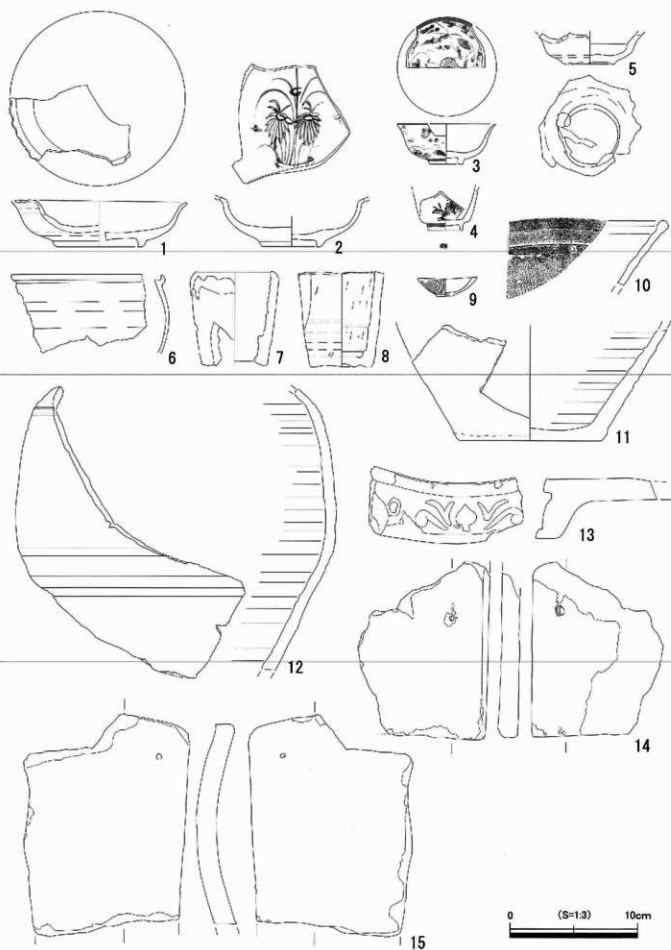
第9図 堀廻り地区 TP-6・7平面図・セクション図



第10図 掘廻り地区TP-8～10平面図



第 11 図 掘廻り地区 TP-8～10 セクション図



第12図 堀廻り地区出土遺物

品・ガラス製品のほか、近現代のタイルや銭貨などがみられた。以下、図示したものについて記す。

- 1) は白磁輪花皿である。くすんだ青みのある素地で、見込みには降灰がみられ、高台には砂が付着する。17世紀前半の肥前産とみられる。
- 2) は染付花盆文小皿である。口縁部が鈔縁状に屈曲し、見込みには染付による花盆文が描かれる。17世紀前半の肥前産とみられる。
- 3) は染付唐草文小坏である。染付により器の内外面に唐草を、見込み中央には渦を描く。19世紀中葉の瀬戸・美濃産であろう。
- 4) は染付草花文小坏である。人工呉須による染付が施され、高台内には銘がみられる。明治以降の瀬戸・美濃系磁器であろう。
- 5) は灰釉小皿である。見込みから外面体部にかけて灰釉が施され、見込みと高台にはそれぞれ3ヶ所の胎土目跡が確認できる。16世紀末葉～17世紀初頭の肥前産陶器とみられ、胴部が鈔縁状に屈曲することから溝縁口縁皿の可能性もある。
- 6) は産地不明の土鍋である。蓋を受ける部分の軸が拭き取られている。
- 7)・8) は焼壺産である。いずれも18世紀代のもものとみられるが、産地を示す刻印が胴部にみられず、蓋も相伴していない。
- 9) は肥前系磁器の紅皿である。19世紀代の所産とみられる。
- 10) は肥前産摺鉢である。玉縁口縁となっており、口縁部のみに鉄釉が施される。
- 11)・12) は19世紀中葉の上野・高取系陶器中甕である。11)は底部を除く外面に鉄釉が施される。12)は外面に鉄釉が施され、肩部に2本、腰部に3本の沈線が廻る。
- 13) は軒瓦である。2次被熱により一部白色化している。14)・15)は鉄釉が施された棧瓦である。

(佐藤)

4. まとめ

寺町地区との境界にある土塁の調査では、福山館期の旧地表面及び、築城時の土塁版築状況を確認した。ただし、廃城後、城郭内は公園化されて堀廻り地区一帯が庭園として改修されたことを踏まえると、造成を受けて現況の堀が二つ並んだ形状の土塁となった可能性も考える必要があろう。

本丸土居の調査では、主に築城時の旧地表面の検出に努めた。その結果、嘉永3年築城時・明治8年廃城時の旧地表面を確認するに至った。

過年度までの調査を踏まえると、本丸土居側の地形は、概ね旧地形を踏襲しており、調査区南側で戦時下に行われ鉄道トンネル工事の影響はそれほどみられなかった。瀬川石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高く、コンクリートによって補強されるなど、最近時まで改修されていたことが判明した。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り上りによる整地がなされていたが、根掘りや根石を検出することができ、安政元年(1854)築城時に描かれた『福山城見分図』と位置関係が一致した。

(佐藤)



第13図 幕末～明治期地形地割復元図（光善寺周辺）

Ⅲ 光善寺庭園の調査

1. 調査の経過

第13図 幕末～明治期地割復元（光善寺周辺）、第14図 光善寺庭園調査位置図

光善寺庭園の遺構確認調査は、平成22年度から開始された。昨年度の調査で、庭池が岸から一様に急角度で掘り込まれた状況や、池の埋土が火災残滓を含む土砂とロームの版築から成ること、州浜や池岸の景石の多くが近代の埋土上に据えられていることが判明している。さらに、光善寺住職からの聞き取り調査を行ったところ、最近時まで州浜や景石の移動があったとの証言があった。

今年度の調査目的は、庭池の導水・排水路の有無、庭池及び東西出島の造成時期、滝口石組遺構の構築時期の精査である。

2. 出土遺構

第15図 光善寺庭園TP-8・9平面図・セクション図

・TP-8

庭園の南東にあるコンクリート側溝が、旧来の排水路を踏襲している可能性があるため、庭池の南東隅に排水遺構確認を目的とした2ヶ所のトレンチを設定した。

寺町一帯の旧地形は、山側から海側へ向かって緩やかに傾斜する段丘で、寺院を建立するにあたっては傾斜地を削平あるいは盛り土して平坦面を造成しており、光善寺境内及び庭園もそうした造成が行われたとみられる。TP 8 十層4) より近代の磁器片が出土していることから、土層2)～4) は明治36年以降の堆積土、土層6) 以下がそれ以前の堆積と考えられる。西面 SPc-SPc' 及び北面 SPd-SPd' にかかる掘り込みは、土層断面の観察から短期間に埋められたとみられるが、部分的な調査であることから性格は不明である。

・TP-9

TP-9は、昨年度調査で礫の集中がみられた TP-1 の南側にかかっており、サブトレンチにより庭池の地山まで掘り下げた。土層1)～4) は最近時の堆積土であり、土層2) には菓子袋が混入する。土層5)・8) 上面が旧表土で、土層5)・6) が明治36年本堂火災後の埋土とみられ、土層6) には炭化物や被熱した瓦・礫といった火災残滓が含まれる。土層7) 以下は明治36年以前の堆積土である。なお、過年度調査した際、庭池に共通する堆積状況として、火災残滓を含む埋土の上層にロームによる版築がみられたが、ここではそれを確認することはできなかった。

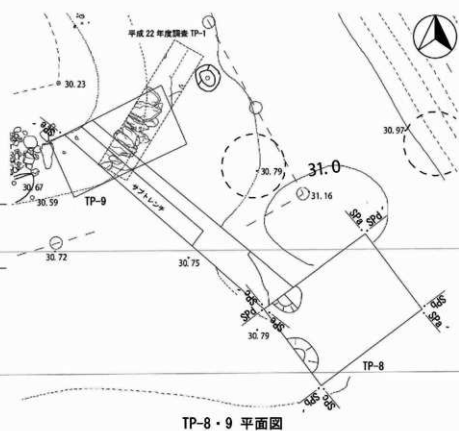
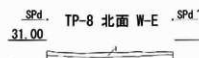
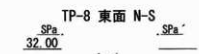
第16図 光善寺庭園TP-10・11平面図・セクション図

・TP-10

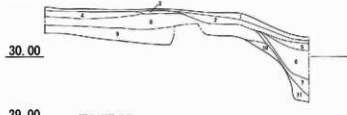
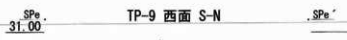
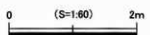
土層8) は明治36年本堂火災後による火災残滓を含む土砂である。よって土層2)～7) はそれ以後の堆積と判断される。土層9) は流れ込みによる堆積、土層10) はロームの版築、土層11) も被熱した煉瓦が含まれることから火災処理に伴う土砂とみられ、いずれも明治36年以前の堆積である。



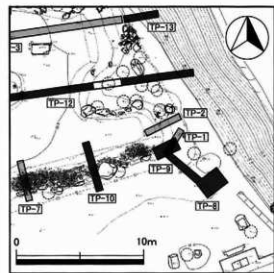
第14図 光善寺庭園調査位置図



- TP-8 瓦面 詳細 説明
1. 灰褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし (露土)
 2. 暗褐色土 10YR3/4 硬まる・粘りなし
 3. 暗褐色土 10YR3/2 硬らぬ・粘りなし
 4. 暗褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし・ローム状土
 5. 暗褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし・ローム状土
 6. 黒褐色土 10YR2/3 硬まる・粘りなし
 7. 暗褐色土 10YR3/3 硬らぬ・粘りなし
 8. 灰褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし・ローム状土
 9. 暗褐色土 10YR3/2 硬らぬ・粘りなし
 10. 暗褐色土 10YR3/2 中々硬まる・粘りなし・ローム状土

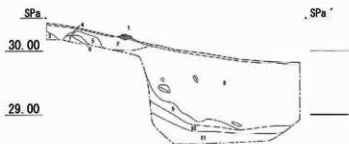


- TP-9 瓦面 説明
1. 暗褐色土 10YR3/3 硬く硬まる・粘りなし
 2. 暗褐色土 10YR3/4 硬まる・粘りなし・ローム状土
 3. 黄褐色土 10YR6/6 硬まる・粘りなし・10YR3/3 硬まる土
 4. 暗褐色土 10YR3/2 中々硬まる・粘りなし・ローム状土
 5. 灰褐色土 10YR6/4 中々硬まる・粘りなし
 6. 黄褐色土 10YR6/4 硬まる・中々粘り・段状粘り土・黄褐色土・硬多量土
 7. 暗褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし
 8. 暗褐色土 10YR3/2 中々硬まる・粘りなし・ローム状土
 9. 暗褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし
 10. 暗褐色土 10YR3/3 中々硬まる・粘りなし・ローム
 11. 黄褐色土 10YR6/4 中々硬まる・粘りなし・10YR3/2 硬多量土



第 15 図 光善寺庭園 TP-8・9 平面図・セクション図

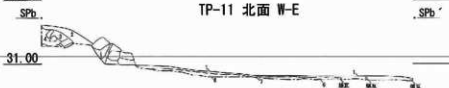
31.00 TP-10 東面 N-S



TP-10 東面 N-S

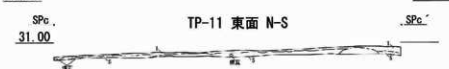
- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 輝岩色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし (北土) 2. 輝岩色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし (北土) 3. 輝岩色土 10YR3/2 硬く硬まる・中～強粘り質・M・Mの混入 4. 輝岩色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし 5. 赤い灰褐色土 10YR5/4 硬く硬まる・やや粘性有り・ロームブロック混入・凝結した凝状土質混入 6. 輝岩色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし | <ol style="list-style-type: none"> 7. 輝岩色土 10YR3/2 やや硬まる・中～強粘り質・M・M・凝結土 10YR2/2 混入 8. 黒褐色土 10YR5/8 硬まる・やや粘り質・ローム・凝結した凝状土質多量混入・グリーンタフ片混入・炭化物混入 9. 黒褐色土 10YR2/2 やや硬まる・粘性なし 10. 輝岩色土 10YR3/2 硬まる・粘性有り・M・M 11. 黒い黄褐色土 10YR4/3 やや硬まる・中～強粘り質・ロームブロック混入 |
|--|---|

32.00



TP-11 北面 W-E

30.00

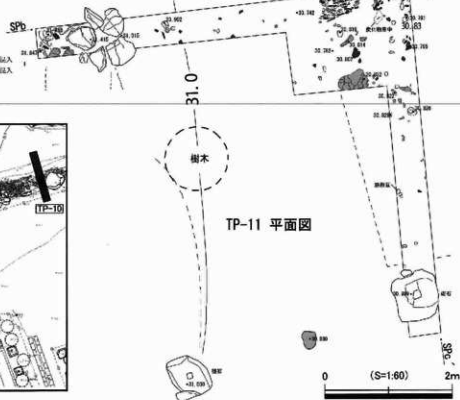


TP-11 東面 N-S

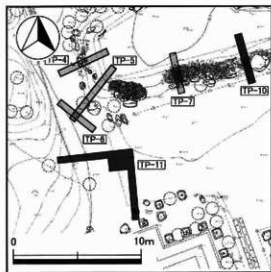
30.00

TP-11 北西 東西

1. 輝岩色土 10YR3/2 硬く硬まる・粘性なし
2. 輝岩色土 10YR3/2 やや硬まる・粘性なし
3. 黒い黄褐色土 10YR5/4 硬まる・粘性なし・炭化物・炭化物多量混入
4. 輝岩色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし・炭化物・炭化物多量混入
5. 黒褐色土 10YR2/2 硬まる・粘性なし
6. 輝岩色土 10YR3/2 硬まる・粘性なし
7. 黄褐色土 10YR6/8 硬まる・粘性なし・中～強粘り質



TP-11 平面図



第16図 光善寺庭園 TP-10・11平面図・セクション図

なお、TP-10 にかかる拝石は、近代の堆積土である上層 2) を掘り込んで据えられており、光善寺住職への聞き取り調査の際、折戸浜（松前町館浜地区の海岸）から持ってきたとの証言と一致している。

・TP-11

TP 8-9 同様、排水遺構の有無を確認するため、庭池の南西隅にトレンチを設定し、西側・南側にトレンチを延長した。表土を除去したところ、燻瓦を地面に対して垂直に立てて並べた雨受けとみられる遺構や、礎石とみられるグリーンタフも検出した。さらに、炭化物の集中や幕末～明治初期にかけての陶磁器等を検出したことを踏まえると、明治 36 年に焼失した光善寺本堂に関する遺構の可能性が高く、トレンチ底面が当時の地表面であったと考えられる。

トレンチ西側には、土砂が土層状に積まれており、礎石とみられる岩石が土留めとして転用されている。トレンチを延長して土層断面を観察したところ、土層 3)・4) に多量の炭化物や礎土が含まれており、被熱した燻瓦、施釉瓦、グリーンタフ片、明治期の仏花紙などが出土した。よって明治 36 年本堂火災の残滓処理によって形成されたものと判断される。

第 17 図 光善寺庭園TP-12平面図、第 18 図 光善寺庭園TP-12セクション図

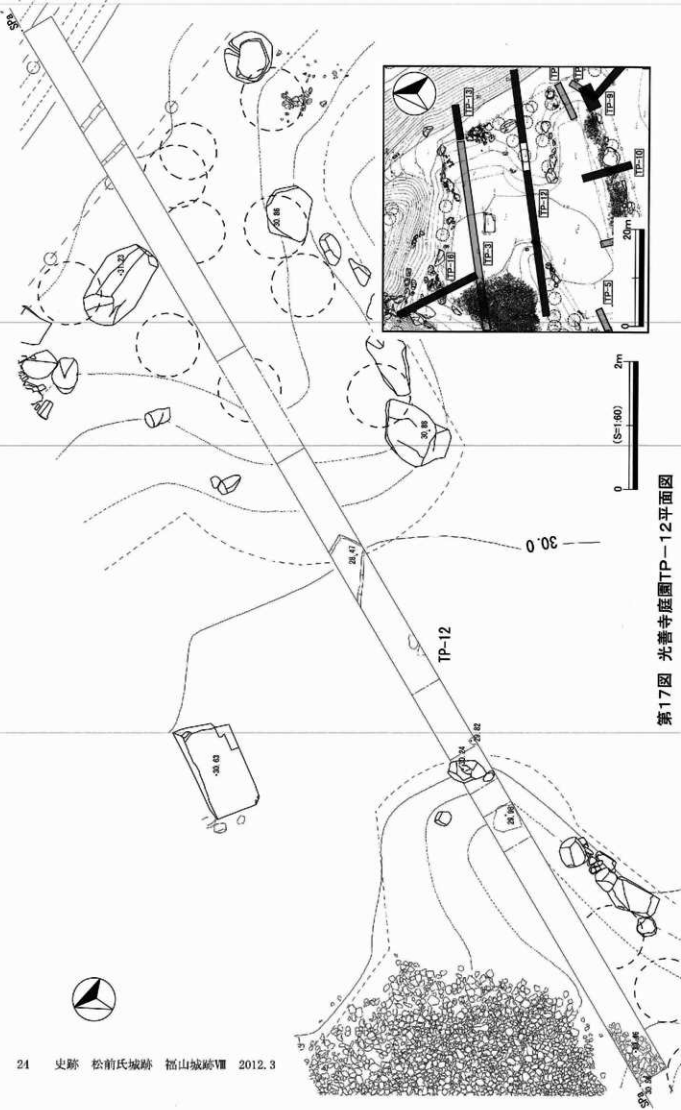
・TP-12

TP-12 は、庭池及び東西の出島にかかるトレンチである。土層断面の観察から、土層 11)・12)・13)・15)・18)・21)・22)・31)・36)・37)・38) の上面が明治 36 年以降の旧地表面とみられ、土層 10) には現代のガラス片が含まれていることから、土層 4)～10) は最近時の盛り土と考えられる。土層 11)～39) は明治 36 年本堂火災の火災残滓を含む埋土である。土層 40) はロームによる版築で、土層 40)・42)・43) が明治 36 年本堂火災以前の旧表土と考えられる。これより下層ではガラスが出土せず、19 世紀中葉の陶磁器や燻瓦、グリーンタフ碎片が含まれるため、幕末～明治初期までの堆積土と考えられる。土層 54) は流れ込みによる自然堆積である。なお、東側出島の突端近くで方形の掘り込みが検出され、埋土から 19 世紀中葉の磁器片や燻瓦が出土したことや、土層断面の観察から、上層 40) ロームによる版築が行われる直前に埋め戻されたものと考えられる。ただし、遺構の性格を明らかにするまでには至らなかった。

第 19 図 光善寺庭園TP-13・14平面図・セクション図

・TP-13

昨年度調査した TP-3 を東に延長した形となる。表土を除去したところで掘り込み面を検出した。しかし自然堆積は認められず、極めて短期間に掘り込まれ、埋め戻されたと考えられた。松前城資料館館長 久保泰氏のご教示によると、昭和 54 年当時、光善寺庭園の築山裏手にトンネルが発見され、その出口を調べるために庭園東側に南北方向の溝を掘ったことがあったが、何もなかったのですぐに埋め戻したという。これを裏付けるように、約 1.7 m まで掘り下げたところでココ・コーラの

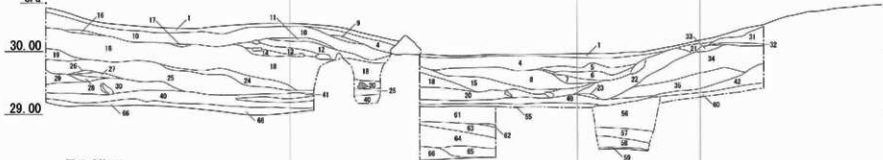


第17図 光善寺庭園TP-12平面図

TP-12 北面 W-E

31.00

SPa



31.00

30.00

29.00

28.00

TP-12 北側 W-E

1. 黒褐色土 10YR2/2 中や硬まる・粘性なし
2. 暗褐色土 10YR2/4 中や硬まる・中や粘性有り・ローム混入
3. 暗褐色土 10YR2/6 硬まる・中や粘性有り
4. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし
5. 黒褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・ローム混入
6. 黒褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし
7. 褐色土 10YR4/6 硬まる・粘性なし・ローム混入
8. 黒褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし
9. 黒褐色土 10YR2/2 硬まる・粘性なし
10. 暗褐色土 10YR2/4 硬まる・粘性なし・グリーンタフ混入・ボラミア質混入
11. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・ローム混入
12. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・ローム混入
13. 暗褐色土 10YR2/4 硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入
14. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入

15. 褐色土 10YR4/6 中や硬まる・粘性有り・1~3mmの砂状混入
16. 褐色土 10YR4/4 硬まる・中や粘性有り・ローム混入
17. 褐色土 10YR4/4 中や硬まる・粘性なし・中や粘性有り・ローム
18. 褐色土 10YR2/2 硬まる・粘性なし・ローム混入・グリーンタフ質混入
19. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・ローム混入
20. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・グリーンタフ混入
21. 暗褐色土 10YR2/2 硬く硬まる・粘性なし
22. 褐色土 10YR4/4 硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入
23. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性有り・ローム・もろい火山礫状灰混入
24. 褐色土 10YR4/4 硬まる・粘性なし・中や粘性有り・ローム
25. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・ローム混入
26. 暗褐色土 10YR4/6 硬まる・粘性有り・ローム
27. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし
28. 褐色土 10YR4/6 中や硬まる・粘性有り・ローム

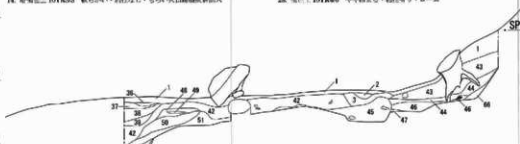
29. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし
30. 暗褐色土 10YR2/2 中や硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入・グリーンタフ質混入
31. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬く硬まる・粘性有り・ローム
32. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・粘性あり混入
33. 褐色土 10YR4/4 硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入
34. 褐色土 10YR4/4 硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入
35. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・もろい火山礫状灰混入
36. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし
37. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ローム混入
38. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ローム・粘土混入
39. 褐色土 10YR4/6 硬く硬まる・粘性なし・ローム
40. 褐色土 10YR2/8 硬く硬く硬まる・粘性有り・ローム

28.00

32.00

31.00

30.00



41. 黒褐色土 10YR2/2 硬まる・粘性なし
42. 暗褐色土 10YR2/4 硬まる・粘性なし
43. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし
44. 黒褐色土 10YR2/2 中や硬まる・粘性なし
45. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・ローム質混入
46. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ローム混入
47. 黒褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし
48. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性有り・ローム

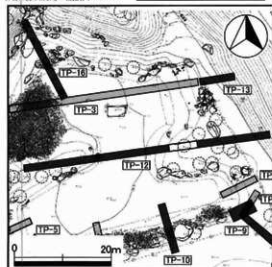
49. 暗褐色土 10YR2/2 硬まる・粘性なし
50. 暗褐色土 10YR2/8 硬まる・粘性なし・ローム混入
51. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性有り
52. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・ローム混入
53. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・ローム混入
54. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし
55. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り
56. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り・砂混入
57. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性なし・ローム混入

58. 褐色土 10YR4/4 硬まる・粘性有り・ローム混入
59. 暗褐色土 10YR2/8 中や硬まる・粘性有り
60. 褐色土 10YR4/4 硬まる・中や粘性有り・グリーンタフ質混入
61. 褐色土 10YR4/4 硬く硬まる・粘性有り
62. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り
63. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ローム混入
64. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ローム混入
65. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性なし・ロームを混入
66. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り・粘土質
67. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り・粘土質
68. 暗褐色土 10YR2/8 硬く硬まる・粘性有り・粘土質

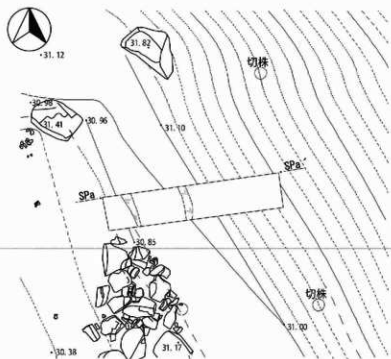
32.00

31.00

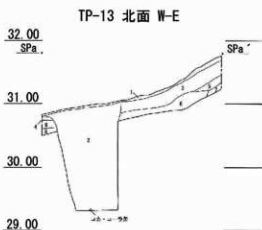
30.00



第18図 光善寺庭園TP-12セクション図



TP-13 平面図



TP-13 北面 W-E

1. 切株色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし (粘土)
2. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・やや粘り有り
3. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
4. 暗褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
5. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
6. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
7. 暗褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
8. 切株色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし

37.00

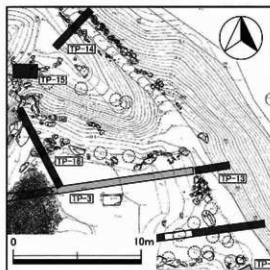
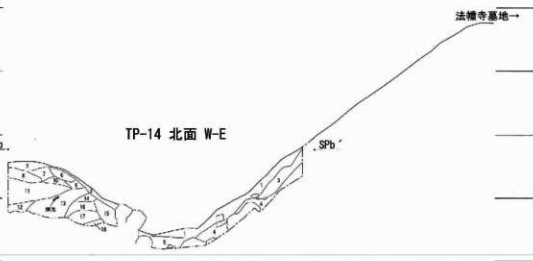
36.00

35.00
SPb

34.00

33.00

TP-14 北面 W-E



TP-14 北面 W-E

1. 切株色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
2. 切株色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
3. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
4. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
5. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
6. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
7. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
8. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
9. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
10. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
11. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
12. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
13. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
14. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
15. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
16. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
17. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし
18. 黒褐色土 10YR2/3 緩く締まる・粘性なし

0 (S=1:60) 2m

第19図 光善寺庭園 TP-13・14 平面図・セクション図

アルミ缶が出土したため、この掘り込みは庭園と何ら関係の無いものであると判断された。

・TP-14

築山と法幢寺側土塁との間に通路がみられ、通路の両側は景石風の石で簡易な土留めがなされている。これを登ると3段の平坦面が続き、最上段の平坦面は光善寺歴代住職墓地となっている。

トレンチは通路に直交する形で設定した。土層1)は土塁上からの崩落土である。土層3)・4)は土留め石を据えた際の地表面とみられ、上面がやや締まっている。土層5)は旧路盤面である。通路を挿んで西側、土層6)～14)は築山を構築するための盛り土で、土層12)には被熱した燻瓦が含まれる。土層9)～14)は、通路を造成する際に掘削を受けたとみられ、土層15)は土留め石を据えた際の埋土であろう。土層16)～18)は通路が造成される以前の自然堆積である。

第20図 光善寺庭園TP-15・16平面図・セクション図

・TP-15

TP-15は滝口石組遺構の上部、滝の落口にあたる傾斜地に設定した。日本庭園研究会(以下、研究会と記す)が滝口上部を調査・整備した際は、「この附近は多いところで四〇cm、平均して三〇cmほど土に埋っていた」(『庭研』209号 日本庭園研究会1981)という。土層1)～3)を除去したところ、10cm前後の礫を敷き詰めた州浜と、長さ約80cm、幅約30cmの平らな凝灰岩を検出した。昭和56年に研究会が調査・整備を行った際の写真やスケッチと比較すると、平らな凝灰岩を確認することができ、周囲の景石にも移動・脱落はみられない。よって、土層1)～3)は最近時の堆積土ということになる。

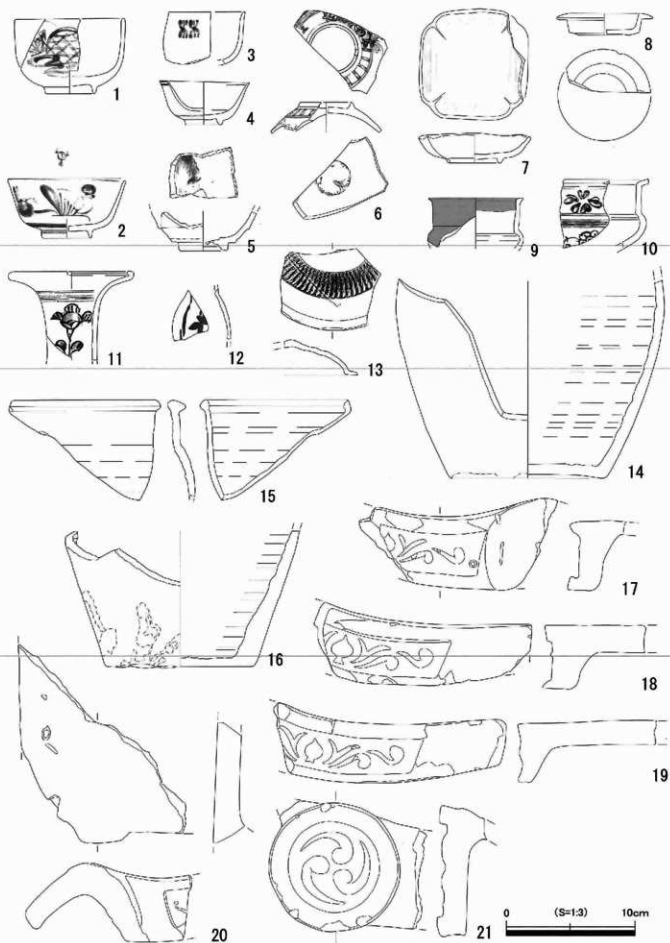
・TP-16

TP-16は滝口石組遺構の下部に設定した。土層1)は、昭和56年に研究会の調査・整備が行われて以降の崩落土である。土層2)は州浜である。形の整った20cm程度の円礫を主体とし、昭和56年には研究会が円礫の補充をしている。また、滝口に二つ並ぶ立石や、平坦な水落石なども土層2)上に据わっている。土層3)～10)は被熱した燻瓦や幕末～明治初期の陶磁器、ガラス、炭化物を含むことから、明治36年本堂火災の火災残滓を含む埋土とみられる。土層11)はロームによる版敷で、上面が硬く締まっている。土層12)～17)は明治36年以前の堆積土とみられ、土層12)・13)にはグリーントフ片が混入し、幕末～明治前期にかけて生産された越後産焼酎徳利が出土している。地山直上に堆積する土層18)は流れ込みによるものである。

第21図 光善寺庭園TP-17・18セクション図

・TP-17

TP-17は、築山やや西寄りにみられる溝に直交する形で設定した。土層3)～



第22圖 光善寺庭園出土遺物(1)

11) は築庭時の盛り土とみられ、土層 10) には 1840 年代～60 年代に生産された肥前産磁器が、土層 11) にはグリーンタフ片が含まれる。それより下層は築山構築以前の堆積土とみられ、縄文土器や石器が含まれる。土層 1)・2) は 3) ～6)・8)・10)・11) 19)・26)・35)・36) を切っており、土層 2 からプラスチック製品が出土したため、この溝は最近時の削削と考えられる。

・TP-18

築山裏手には平坦面がみられ、東側の土塁を挿んで光善寺墓地に隣接する。トレンチは土塁上から平坦面にかけて設定した。土層 2) ～7) は近世の盛り土とみられ、土層 3) には 18 世紀末葉～19 世紀前半の肥前産磁器が含まれる。土層 8) ～10) 上面が旧表土とみられ、土層 9) はロームの版築であることから、平場に何らかの建物があった可能性を示唆している。

(佐藤)

3. 出土遺物

表 2 出土遺物一覧表、表 4 光善寺庭園出土遺物観察表、第 2 2 図 光善寺庭園出土遺物 (1)、第 2 3 図 光善寺庭園出土遺物 (2)、第 2 4 図 光善寺庭園出土遺物 (3)

光善寺庭園の出土遺物は総計 2,676 点で、縄文土器・石器・陶磁器・瓦・金属製品・ガラス製品、古銭がある。以下、図示したものについて記す。

1) は鶴鯛い風景を描いたとみられる染付小坏である。18 世紀末葉～19 世紀前葉の肥前産とみられる。

2)・3)・4) は瀬戸・美濃系磁器の染付小坏である。2) は外面に草文、見込みに不明文様が描かれ、口縁が施される。3) は外面に源氏香文が描かれる。4) は外面口縁下と腰部、高台脇に染付による圏線が廻る。いずれも 19 世紀中葉とみられる。

5) は産地不明陶器の小坏である。内面から外面腰部にかけて厚く藁白釉が施され、内面にわずかに鉄釉が流し掛けられる。高台は精緻に削り出され、底部は溝状になっている。

6) は染付碗の蓋である。外面には橘の欄干とみられるものが、内面は簡略な松竹梅文が描かれる。19 世紀前半の肥前産とみられる。

7) は白磁小皿である。型打ちにより見込み中央には龍文が、見込み四方には猪目文と雷文を組み合わせた文様帯が施される。19 世紀中葉の瀬戸・美濃系とみられる。

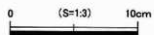
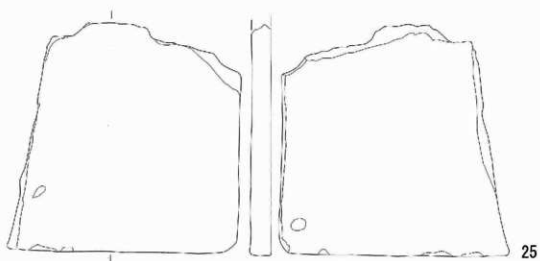
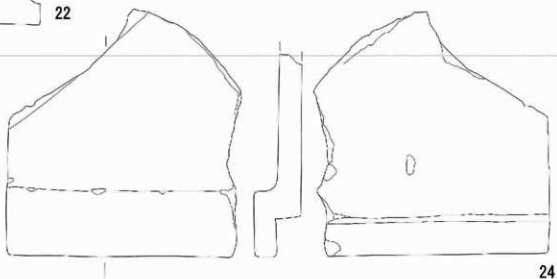
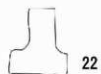
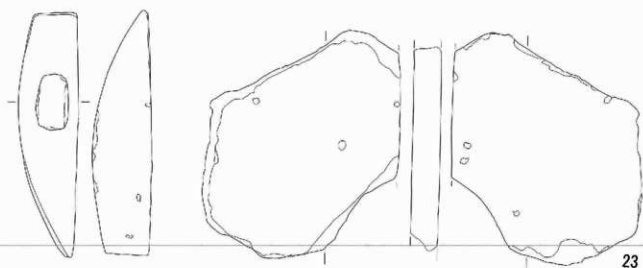
8) は水注あるいは油注の蓋である。内面には鉄釉が施され、外面は無釉となる。

9)・10) は香炉である。9) は外面から内面頸部にかけて青磁釉が施される。産地不明。10) は肥前系磁器とみられ、染付により桜花文が描かれる。いずれも 19 世紀代の所産とみられる。

11) は産地不明の仏花瓶である。人工具須を用いた染付により、頸部に花卉文が描かれる。明治以降の製品である。

12) は小型の徳利である。外面に染付による文様が描かれる。19 世紀代の肥前系とみられる。

13) は土鍋の蓋である。飛び鉋に加え鉄釉が刷毛塗りされ、さらに白泥を用いた



第23図 光善寺庭園出土遺物(2)

筒描きが施される。19世紀代の所産とみられる。

14)・15)・16) は上野・高取系陶器の中甕である。14) は内外面に茶褐色の鉄釉が施され、内面に顕著なロクロ残る。15) は外面に黄褐色の鉄釉が施され、無い名には鉄釉が塗られる。口縁部はT字型に肥厚し、上面の釉が拭き取られる。16) は外面に茶褐色、内面に黒色の鉄釉が施される。いずれも19世紀中葉の所産である。

17)・18)・19) は軒瓦である。いずれも燻瓦で、2次被熱により一部白色化している。20) は鉄釉が施された軒瓦である。21) は巴瓦である。燻瓦であるが、2次被熱により一部白色化している。22) は鏝面戸瓦である。燻瓦で、欠損や2次被熱の痕跡はみられない。23)・24)・25)・26)・27) は棧瓦である。いずれも燻瓦で、2次被熱により一部白色化している。

28) は石鍾である。29) はいわゆる北海道式石冠である。風化により表面がもろくなっている。30)・31) は緑色泥岩の磨製石斧で、全体に擦痕が認められる。28)・29) は州派の砂利に混じていたものである。

32) は鋼製の留具とみられる。表面の地文は魚子で、陰刻により唐草文が施される。3ヶ所に釘を打つ穴が開いている。33) は寛永通寶で、背字下部が「八宝貝」となっていることから、寛文8年(1668)以降に鋳造された新寛永通寶である。

(佐藤)

4. まとめ

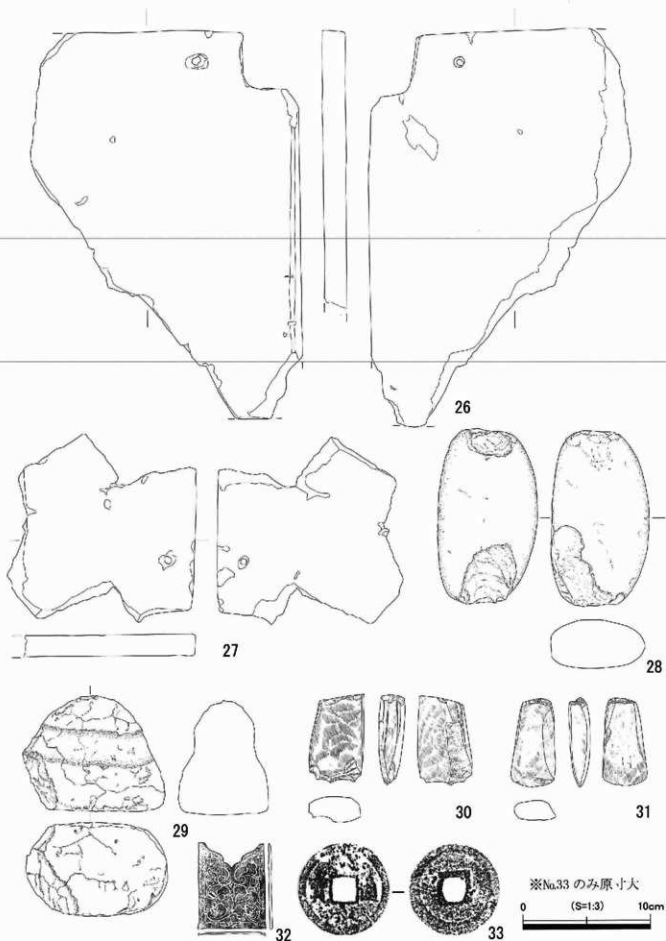
まず、昨年度の成果も踏まえて庭池の造成についてまとめてみたい。庭池は池岸から急角度で掘り込まれており、平坦な池底となる。さらに、地山直上に黒色土・黒褐色土の流れ込みが確認でき、その上に火災残滓を含む土砂を埋め戻し、ロームを版築して池底を均している。このロームより下層からはガラス片が出土せず、19世紀中葉の陶磁器がもともと新しい遺物であることから、ローム版築は幕末～明治初期とみられる。版築ロームの上にさらに火災残滓を含む土砂が堆積しているが、ガラスや近代の陶磁器などが含まれることから、明治36年本堂火災の残滓処理による堆積とみられ、現況の庭池及び出島が形成されたのはこれ以降となる。

次に、澁口石組遺構及び州派については、トレンチの土層断面や地表面からの観察により、その多くが明治36年の火災残滓を含む土層上に据えられていることが判明した。また、光善寺住職への聞き取り調査では、最近時まで州派や景石の移動があり、一部は本堂南側の庭園を造成する際に抜き取られたという証言があることから、現況の庭園の景観は最近時のものである可能性が高い。

導水・排水遺構については、今年度の調査でも検出することはできず、少なくとも明治36年以降は州派を用いた枯山水庭園であったと判断するに留まる。しかし、光善寺の西を流れる坊主沢から築山裏手まで延びるトンネルが存在しており、これが築庭当初、導水路として掘削された可能性も考えられる。

※年度の課題は、庭池が掘り込まれた時期とその理由を精査すること、築庭当初の景石の特定と抜き取り痕の把握、導水施設の可能性のあるトンネルの地下レーダー探査などが挙げられる。

(佐藤)



第24図 光善寺庭園出土遺物(3)

表3 堀廻り地区出土遺物観察表

図番号	材質	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	成形・装飾技法	産地	製作年代	出土地点	
1	磁器	小皿	(14.4)	(7.2)	4.1	ロクロ成形/白磁 口縁輪花型	肥前	17世紀前半	TP-7	
2	磁器	小皿		4.5		ロクロ成形/染付 花盤文	肥前	17世紀前半	TP-2	
3	磁器	小皿	(8.4)	(2.7)	3.6	ロクロ成形/染付 唐草文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-10	
4	磁器	小皿		(2.7)		ロクロ型打ち成形/染付 花卉文	瀬戸・美濃系	19世紀前半～後半	TP-7	
5	陶器	小皿		(4.8)		ロクロ成形/灰釉 胎土白結み	肥前	17世紀前半	TP-8	
6	陶器	土鍋				ロクロ成形/透明釉 行平鍋	不明	19世紀	TP-6	
7	上器	鉄塩壺	6.6					18世紀	TP-10	
8	上器	鉄塩壺	6.6	5.1	8.4			18世紀	TP-10	
9	磁器	紅皿	5.1	1.2	1.8	型押し成形/白磁	肥前系	19世紀	TP-1	
10	陶器	摺鉢				ロクロ成形/鉄釉	肥前	17世紀後半～18世紀初頭	TP-10	
11	陶器	中甕			12.3		上野・高取系	19世紀中葉	TP-5	
12	陶器	中甕				ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-5	
13	瓦	軒瓦					濃瓦	不明	19世紀	TP-10
14	瓦	棧瓦					鉄釉	不明	19世紀	TP-10
15	瓦	棧瓦					鉄釉茶	不明	19世紀	TP-7

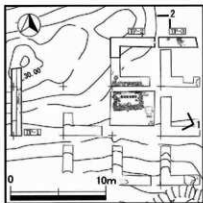
表4 光善寺庭園出土遺物観察表

図番号	材質	種別	口径 長さ	底径 幅	器高 厚さ	成形・装飾技法等	産地	製作年代	出土地点
1	磁器	小皿	(8.4)	(3.6)	5.9	ロクロ成形/染付 流水文	肥前	18世紀後半～19世紀前半	TP-10
2	磁器	小皿	12.0	3.6	3.6	ロクロ成形/染付 草文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-12
3	磁器	小皿				ロクロ成形/染付 藤氏吾文	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-14
4	磁器	小皿	(6.9)	(2.7)	3.3	ロクロ成形/染付	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-9
5	陶器	小皿			3.6	ロクロ成形/霽白釉	不明	19世紀	TP-12
6	磁器	蓋	(3.9)			ロクロ成形/染付	肥前	19世紀前半	TP-12
7	磁器	小皿	8.4	3.9	2.4	型押し成形/白磁	瀬戸・美濃系	19世紀中葉	TP-12
8	陶器	蓋	(3.6)	(3.9)	1.8	ロクロ成形/鉄釉	不明	19世紀	TP-12
9	磁器	香炉	(6.3)			ロクロ成形/青磁	不明	19世紀	TP-12
10	磁器	香炉				ロクロ成形/染付 桜花文	肥前系	19世紀	TP-11
11	磁器	仏花瓶	(8.7)			ロクロ成形/染付 人丁具柄を用い 花卉文	不明	19世紀中葉～後半	TP-11
12	陶器	徳利				ロクロ成形/染付	肥前系	19世紀前半～中葉	TP-8
13	陶器	甕				ロクロ成形/鉄釉 飛び髭 白泥による筒挿き	不明	19世紀	TP-17
14	陶器	中甕		(11.7)		ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
15	陶器	中甕				ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
16	陶器	中甕		(11.4)		ロクロ成形/鉄釉	上野・高取系	19世紀中葉	TP-12
17	瓦	軒瓦							TP-12
18	瓦	軒瓦							TP-11
19	瓦	軒瓦							TP-12
20	瓦	軒瓦							TP-11
21	瓦	巴瓦							TP-11
22	瓦	鉄瓦	19.2	4.5	3.6				TP-12
23	瓦	棧瓦							TP-12
24	瓦	棧瓦							TP-11
25	瓦	棧瓦							TP-16
26	瓦	棧瓦							TP-12
27	瓦	棧瓦							TP-15
28	石器	石鐘	13.8	7.5	3.9				
29	石器	すり石		8.7	9.0	北海道式石碓		縄文時代	表掘
30	石器	石斧		4.2	2.1	緑色泥岩		縄文時代	表掘
31	石器	石斧	6.9	3.6	1.5	緑色泥岩		縄文時代	TP-17
32	銅	留金	6.6	5.1	0.1	唐草文			TP-11
33	銅	古銭	2.4	2.4	0.2	寛永通宝		寛文8年(1668)以降	TP-11

参考文献

- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅴ』平成19年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2008
- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅵ』平成21年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2010
- ・『史跡 松前氏城跡福山城跡Ⅶ』平成22年度発掘調査報告書 松前町教育委員会 2011
- ・『神明石切り場跡Ⅱ』平成20年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教育委員会 2009
- ・『福山城・福山城下町遺跡』道道松前港線改良工事に関わる発掘調査報告書 松前町教育委員会 2006
- ・『福山城下町遺跡Ⅳ』道道松前港線改良工事に関わる発掘調査報告書 松前町教育委員会 2008
- ・『神明石切り場跡Ⅲ 大館遺跡 バッコ沢半屋跡遺跡』平成21年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教育委員会2010
- ・『神明石切り場跡Ⅳ バッコ沢半屋跡遺跡Ⅱ 日枝社通遺跡 福山城(天神坂)』平成22年度町内遺跡発掘調査報告書 松前町教区委員会 2011
- ・『松前の文化財』松前町教育委員会 2011
- ・『庭研』204号「光善寺庭園(北海道松前町)について」吉河 功 日本庭園研究会 1980
- ・『庭研』209号「松前・光善寺庭園の礎石組」吉河 功 日本庭園研究会 1981
- ・『北海道の文化』53「松前光善寺の古庭復元 その後(一)」丸山恵照 北海道文化財保護協会 1985
- ・『遺園大辞典』上原敬二編 加島書店 1978

写 真 图 版



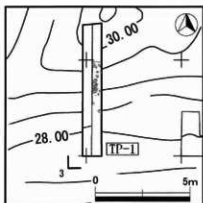
1. 土塁近景 (1)

堀廻り地区北端、寺町地区との境界にみられる土塁にTP-1・2を設定した。



2. 土塁近景 (2)

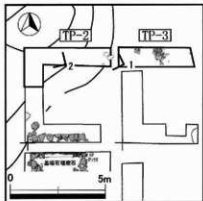
土塁を寺町側から見た状況。



3. TP-1

トレンチ底面が嘉永3年築城以前の地表面、それより上層が安政元年新城完成以降の堆積土である。

図版2 堀廻り地区TP-2~6



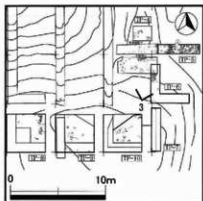
1. TP-2・3

グリッド杭よりやや奥まで
ロームが敷かれており、嘉永
3年築城時の地表面の可能性
がある。



2. TP-2

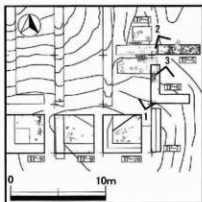
築城時に出たとみられるグ
リーンタフのハツリ層が集中
的に堆積する。



3. TP-4~6 近景 (1)

TP-4~6 設定地点であ
る。過年度の調査で本丸土居
石垣根石や根掘りが検出され
ている。





1. TP-4~6 近景(2)

TP-4~6 調査状況。いずれのトレンチも、底面が享永3年築城以前の地表面とみられる。



2. TP-5

築城時に出たグリーンタフのハツリ層が散布する。

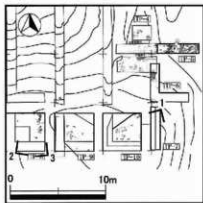


3. TP-6

近代以降の土砂が厚く堆積する。



図版4 堀廻り地区TP-7~10



1. TP-7

明治8年築城前の堆積である黄褐色土が青銅へ落ち込んでいる。上層の黒褐色土は近・現代の堆積土である。



2. TP8~10 近景

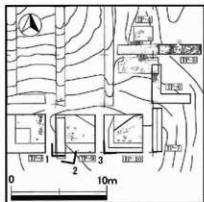
平面発掘した部分の底面が、明治8年築城時の地表面とみられる。



3. TP-8

西へ向けてゆるやかに傾斜する地形である。横列等の遺構は確認できなかった。





1. TP-9全景
 ここでも横列等の遺構は確認できない。



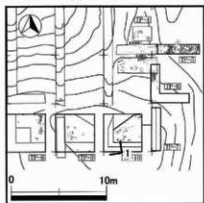
2. TP-9西面セクション
 写真右上にみられる黒色土層の上面が、嘉永3年築城以前の地表面である。



3. TP-10
 グリッド北東部分は整地盛り土とみられるシミが確認できる。



図版6 堀廻り地区TP-10・出土遺物



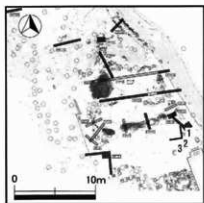
1. TP-10西面セクション
トレンチ中央の掘り込みは廃
城以前の堆積土を切っている。



2. 堀廻り地区出土遺物(1)



3. 堀廻り地区出土遺物(2)



1. 全景 (1)

調査前の全景である。樹木が繁茂して地形が隠れている。



2. 全景 (2)

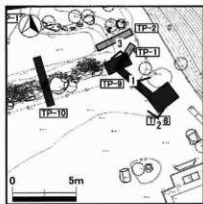
調査終了後の全景である。樹木の葉が落ち、地形がやや見えるようになった。



3. 全景 (3)

昭和 56 年に日本庭園研究会による手入れがなされた直後の状況である。支障木や崩落土を撤去され、地形がよく判る。写真左奥に見える御髪山が借景として取り入れられている。





1. TP-8 (1)

土塁と草表の間に向かってコンクリート側溝が延びるため、排水遺構の存在が想定された。



2. TP-8 (2)

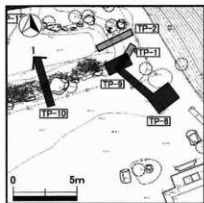
調査の結果、トレンチ底面が築庭時の盛地層とみられ、排水遺構は確認できなかった。



3. TP-9

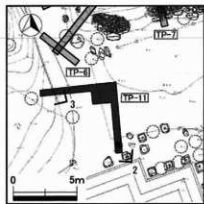
池岸からの落ち込みは過年度調査トレンチと同様だが、この地点では火災残滓を含む土砂の間にロームの版築を確認することはできない。





1. TP-10

巨大な打石は、最近時の堆積土である暗褐色土の上に据えられている。



2. TP-11 (1)

庭池南西側のトレンチである。トレンチ南側にかかる花崗岩の礎石は、明治36年に焼失した本堂のものである。

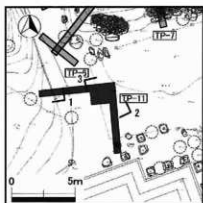


3. TP-11 (2)

庭園東側にある盛り土は、明治36年本堂火災の瓦礫を廃棄したものと伝わる。



図版 10 光善寺庭園TP-11



1. TP-11 (3)

庭園東側盛り土を調査したところ、火災残滓が大量に含まれていた。出土遺物から、明治36年本堂火災に伴うものと判断される。



2. TP-11 (4)

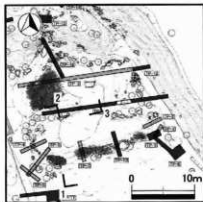
トレンチ底面は非常に硬く締まっており、炭化物の集中や焼土を検出した。明治36年本堂火災時の地表面とみられる。



3. TP-1 (5)

写真手前は、燃瓦を垂直に並べた雨受けとみられる遺構である。





1. TP-12 (1)

トレンチ設定場所の近景。西側出島の中央部分はやや凹んでいる。



2. TP-12 (2)

西側出島部分のトレンチ。庭池北西にある州浜の延長を確認した。

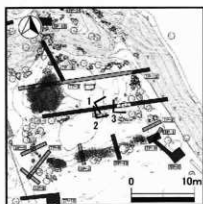


3. TP-12 (3)

庭池部分のトレンチ。現地表面から80cm掘り下げたところで、ロームの版築を検出した。



図版 12 光善寺庭園TP-12



1. TP-12 (4)

庭池から東鶴出島にかけての
トレンチ。明治36年本堂火
災以前の地表面とみられる暗
褐色土の立ち上がりが確認で
きる。



2. TP-12 (5)

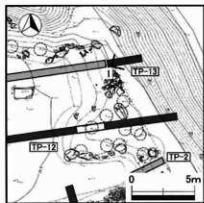
ロームの版築を削いだところ、
方形の掘り込みを確認した。
掘上には漏瓦や19世紀
中葉の磁器片が含まれる。



3. TP-12 (6)

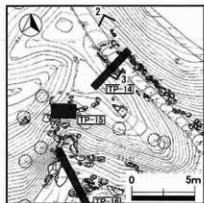
東鶴出島部分のトレンチ。庭
池の落ち込みが確認できる。
写真左上の巨石は、明治36
年以降の堆積土を掘り込んで
掘えられている。





1. TP-13

埋土にコカ・コーラ缶が混入していた。昭和54年ころの掘り込みである。



2. TP-14 (1)

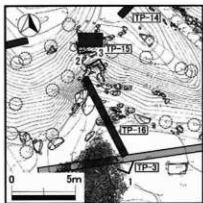
庭園東側の土塁に沿って通路がある。築山と土塁の間には、石による土留めがなされる。



3. TP-14 (2)

旧来は西方のボウズ沢へと落ち込む傾斜地であった部分に、盛り土による築山を構築し、通路を造るために削平したとみられる。





1. 滝口石組近景

滝口石組の輪郭を明らかにするため、枯葉・雑草を除去したところ、部分的に州浜が現れた。



2. T P - 15

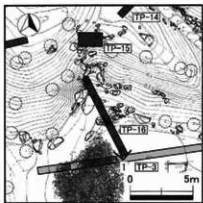
滝口石組上部のトレンチ。流水を表現する砂利敷きを検出した。中央には平らな凝灰岩が据えられ、その下は空洞になっている。



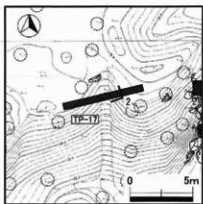
3. T P - 16 (1)

滝口石組下部のトレンチ。表土を除去すると、昭和56年に日本庭園研究会が整備した州浜が現れた。

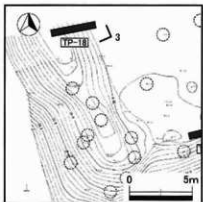




1. TP-16 (2)
地山ロームまで掘り下げた状況。州浜・滝口石組の多くは、明治36年以降の土層に据わっている。



2. TP-17
トレンチ中央の溝が掘られたのは極めて最近であって、本来は一続きの築山であった。



3. TP-18
築山裏の平坦面東側にみられる土塁である。遺物から判断して構築時期は18世紀末葉以降とみられる。





1. 光善寺庭園出土遺物 (1)



2. 光善寺庭園出土遺物 (2)



3. 光善寺庭園出土遺物 (3)

報告書抄録

ふりがな	しせき まつまえししろあと ふくやまじょうあと							
書名	史跡 松前氏城跡 福山城跡Ⅱ							
副書名	平成23年度年度発掘調査報告書							
巻次								
シリーズ名								
シリーズ番号	Ⅱ							
編著者名	前田 正 憲・佐藤 雄 生							
編集機関	松前町教育委員会							
所在地	〒049 1594 北海道松前郡松前町字神明30番地 TEL.01394-2-3060							
発行年月日	平成24（2012）年3月23日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		山町村	遺跡番号					
しせきまつまえししろあと 史跡松前氏城跡 ふくやまじょうあと 福山城跡 あてじょうあと 館城跡 のうち ふくやまじょうあと 福山城跡	ほつかいどうまつまえじん 北海道松前郡 まつまじょうあがまつしろ 松前町字松城	01331	B-02-53	41度 25分 38秒	140度 6分 41秒	20100730 ～ 20101029	94	史跡整備事業
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
史跡松前氏城跡 福山城跡 館城跡 のうち 福山城跡	城跡	幕末～明治	木丸土居石垣根掘り跡・土塁 滝口石組・州浜・庭池・築山		縄文土器・石器・幕末陶磁器等			
要約								
<p>今年度の調査により、本丸土居側旧地形が概ね判明した。これまでの調査成果から、滝口石組は明治以降、公園化した際に構築された可能性が極めて高いと考えられる。また、本丸土居石垣はほぼ抜き取られ、盛り土による整地がなされていたが、根掘りや根石を検出することができ、安政元年（1854）築城時に描かれた『福山城見分圖』と位置関係が一致した。</p> <p>光善寺庭園については、滝口石組・庭池・東西出島のおおよその構築年代が判明したが、導水・排水遺構を検出するには至らなかった。</p>								

史跡 松前氏城跡

福山城跡Ⅷ

—平成23年度 発掘調査報告書—

発行：平成24年3月23日

発行者：北海道松前町教育委員会

印刷：榎長門出版社 印刷部

**史跡松前氏城跡福山城跡Ⅷ
平成 23 年度 発掘調査報告書
電子版**

2025 年 1 月 31 日 第 1 刷

発行者 北海道松前町教育委員会

〒049-1594 北海道松前郡松前町字神明 30

TEL:0139-42-3060/FAX:0139-42-2211

WEB:<https://www.town.matsumae.hokkaido.jp/bunkazai/>

MAIL:bunkazai@town.matsumae.hokkaido.jp

底本：史跡松前氏城跡福山城跡Ⅷ 平成 23 年度 発掘調査報告書
(2012 年 北海道松前町教育委員会発行)

この電子書籍は閲覧を目的としているため、不鮮明な図版や誤字が含まれる場合があります。必要に応じて、お近くの図書館等で底本をご利用ください。